

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年2月14日

**【四半期会計期間】** 第37期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)

**【会社名】** 日本ケミカルリサーチ株式会社

**【英訳名】** JCR Pharmaceuticals Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 取締役会長兼社長 芦田 信

**【本店の所在の場所】** 兵庫県芦屋市春日町3番19号

**【電話番号】** 芦屋 0797(32)8591

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役管理本部長 萬谷 哲志

**【最寄りの連絡場所】** 兵庫県芦屋市春日町3番19号

**【電話番号】** 芦屋 0797(32)8591

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役管理本部長 萬谷 哲志

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第36期 第3四半期 連結累計期間	第37期 第3四半期 連結累計期間	第36期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(千円)	10,513,139	9,696,670	14,457,846
経常利益	(千円)	1,297,451	923,911	1,312,429
四半期(当期)純利益	(千円)	788,096	530,028	926,473
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	497,841	394,567	783,523
純資産額	(千円)	22,542,766	22,756,708	22,832,148
総資産額	(千円)	29,902,524	29,488,296	29,817,499
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	24.68	16.46	28.93
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	24.33	16.41	28.61
自己資本比率	(%)	75.1	76.9	76.3

回次		第36期 第3四半期 連結会計期間	第37期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	5.65	6.39

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第36期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 第37期第1四半期連結会計期間より潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定にあたり、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、第36期第3四半期連結累計期間及び第36期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額について遡及処理を行っております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(医薬品事業)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社JCRエンジニアリングを新規設立しております。

この結果、平成23年12月31日現在では、当社グループは、当社、連結子会社4社、持分法適用関連会社1社およびその他の関係会社2社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におきましては、販売面においてエリアマーケティングの強化を図るとともに、グラクソ・スミスクライン・グループとの協業により世界水準の品質保証体制の構築に努めてまいりました。研究開発面におきましては、ヒト間葉系幹細胞（MSC）について第 / 相臨床試験を開始し、また、平成23年12月には成長ホルモン製剤「グロウジェクト」の「骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症（子宮内発育遅延性低身長症）」への効能追加申請を行いました。また、平成23年9月に、株式会社メディパルホールディングスとの間で、当社が開発する3品目を対象とした開発投資契約を締結いたしました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における当社グループの売上高は、医薬品製品群の売上高は前年同期比で増収となりましたが、抗がん剤原体（商品）および契約金収入が前年同期比で減収となったことにより、96億96百万円（前年同期比8億16百万円減）となりました。

利益面におきましては、主として契約金収入の減収の影響により、営業利益は9億71百万円（前年同期比3億57百万円減）、経常利益は9億23百万円（前年同期比3億73百万円減）、四半期純利益は5億30百万円（前年同期比2億58百万円減）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

#### 医薬品事業

医薬品製品群（「グロウジェクト」、「エポエチンアルファBS注」CR）などの売上高は83億83百万円（前年同期比3億4百万円増）となりましたが、抗がん剤原体（商品）および契約金収入が前年同期比で減収となったことにより、医薬品原体、契約金などを含む医薬品事業の売上高は94億15百万円（前年同期比8億5百万円減）、セグメント利益（営業利益）は9億36百万円（前年同期比3億82百万円減）の結果となりました。

#### 医療用・研究用機器事業

医療用・研究用機器事業の売上高は2億80百万円（前年同期比11百万円減）となりましたが、経費削減効果によりセグメント利益（営業利益）は30百万円（前年同期比15百万円増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は294億88百万円（前連結会計年度末比3億29百万円減）、負債合計は67億31百万円（前連結会計年度末比2億53百万円減）、純資産合計は227億56百万円（前連結会計年度末比75百万円減）となりました。

流動資産は、有価証券が減少した一方、たな卸資産および前払費用が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ3億91百万円増加して142億12百万円となりました。固定資産につきましては、長期前払費用が増加した一方、投資有価証券が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ7億20百万円減少して152億76百万円となりました。

流動負債は短期借入金が増加した一方、未払法人税等および未払金が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ73百万円減少して47億59百万円となりました。固定負債は、長期借入金およびリース債務の減少などにより、前連結会計年度末に比べ1億80百万円減少して19億72百万円となりました。

なお、前払費用、長期前払費用の増加は、主としてTPG Biotechnology Partners, L.P.との契約に基づくロイヤルティの支払条件を変更し、今後支払うロイヤルティを一括前払いしたことによるものであります。

純資産につきましては、四半期純利益を計上した一方、配当金の支払いおよびその他の包括利益累計額の減少などにより、前連結会計年度末に比べ75百万円減少して227億56百万円となりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.6ポイント上昇して76.9%となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,430,810千円（前年同期実績1,340,449千円）であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、成長ホルモン製剤「グロウジェクト」の「骨端線閉鎖を伴わないSGA性低身長症（子宮内発育遅延性低身長症）」への効能追加申請を行いました。

## (5) 従業員の状況

当第3四半期連結累計期間において、連結会社または提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

## (6) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注および販売実績の著しい変動はありません。

## (7) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動および新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	32,421,577	32,421,577	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第二部)	単元株式数は100株 であります。
計	32,421,577	32,421,577		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年12月31日		32,421,577		9,061,866		7,827,788

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 264,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,144,700	321,447	
単元未満株式	普通株式 12,577		
発行済株式総数	32,421,577		
総株主の議決権		321,447	

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株(議決権12個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本ケミカルリサーチ 株式会社	兵庫県芦屋市春日町 3番19号	264,300		264,300	0.82
計		264,300		264,300	0.82

## 2 【役員状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,439,264	1,378,430
受取手形及び売掛金	3,904,924	4,182,650
有価証券	2,979,717	2,223,075
商品及び製品	668,566	1,052,856
仕掛品	1,060,196	1,324,648
原材料及び貯蔵品	2,846,064	3,094,488
その他	928,131	962,355
貸倒引当金	6,146	6,434
<b>流動資産合計</b>	<b>13,820,720</b>	<b>14,212,071</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	3,700,457	3,516,083
土地	3,602,773	3,602,773
その他(純額)	3,015,987	2,777,726
<b>有形固定資産合計</b>	<b>10,319,218</b>	<b>9,896,583</b>
<b>無形固定資産</b>		
	120,539	101,082
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	4,412,021	3,494,961
その他	1,343,565	1,987,835
貸倒引当金	198,564	204,237
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>5,557,021</b>	<b>5,278,559</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>15,996,779</b>	<b>15,276,225</b>
<b>資産合計</b>	<b>29,817,499</b>	<b>29,488,296</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	955,207	916,995
短期借入金	1,746,000	2,045,400
未払法人税等	323,914	51,088
賞与引当金	249,155	140,815
役員賞与引当金	59,500	42,375
その他	1,499,131	1,562,580
<b>流動負債合計</b>	<b>4,832,908</b>	<b>4,759,256</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	633,200	548,800
退職給付引当金	50,655	58,825
その他	1,468,586	1,364,706
<b>固定負債合計</b>	<b>2,152,442</b>	<b>1,972,331</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,985,350</b>	<b>6,731,588</b>



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,061,866	9,061,866
資本剰余金	10,779,605	10,779,882
利益剰余金	2,964,585	3,107,945
自己株式	82,722	189,128
株主資本合計	22,723,335	22,760,566
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	53,646	63,052
繰延ヘッジ損益	55,329	67,916
為替換算調整勘定	40,464	34,212
その他の包括利益累計額合計	38,780	96,757
新株予約権	69,717	92,507
少数株主持分	315	392
純資産合計	22,832,148	22,756,708
負債純資産合計	29,817,499	29,488,296

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	10,513,139	9,696,670
売上原価	3,517,693	3,077,738
売上総利益	6,995,445	6,618,931
販売費及び一般管理費		
販売費及び一般管理費合計	5,665,881	5,647,328
営業利益	1,329,564	971,603
営業外収益		
受取利息	42,273	41,714
受取配当金	18,379	17,784
その他	35,485	15,858
営業外収益合計	96,137	75,357
営業外費用		
支払利息	43,557	43,899
為替差損	23,750	1,331
持分法による投資損失	56,706	64,074
その他	4,234	13,744
営業外費用合計	128,250	123,050
経常利益	1,297,451	923,911
特別利益		
投資有価証券売却益	5,225	-
特別利益合計	5,225	-
特別損失		
固定資産処分損	4,013	2,169
ゴルフ会員権評価損	-	600
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	14,783	-
特別損失合計	18,796	2,769
税金等調整前四半期純利益	1,283,880	921,141
法人税、住民税及び事業税	426,417	249,103
法人税等調整額	69,299	141,932
法人税等合計	495,717	391,036
少数株主損益調整前四半期純利益	788,162	530,105
少数株主利益	66	77
四半期純利益	788,096	530,028

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	788,162	530,105
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	135,523	116,698
繰延ヘッジ損益	134,672	12,587
為替換算調整勘定	20,124	6,252
その他の包括利益合計	290,320	135,537
四半期包括利益	497,841	394,567
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	497,775	394,490
少数株主に係る四半期包括利益	66	77

## 【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

## 【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社JCRエンジニアリングを連結の範囲に含めております。

## 【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間  
(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

(会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号平成22年6月30日)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、これによる影響については、「1株当たり情報に関する注記」に記載しております。

## 【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

## 【追加情報】

当第3四半期連結累計期間  
(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

## 【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>保証債務</b> 関係会社の金融機関からの借入金について、次のとおり債務保証を行っております。 (株)バイオマトリックス研究所 298,000千円	<b>保証債務</b> 関係会社の金融機関からの借入金について、次のとおり債務保証を行っております。 (株)バイオマトリックス研究所 298,000千円 また、上記以外に同社の金融機関からの借入金について、定期預金45,000千円を担保に供しております。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費 702,974千円	減価償却費 817,570千円

## (株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年5月14日 取締役会	普通株式	291,992	10.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	193,693	6.00	平成22年9月30日	平成22年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

平成22年5月6日付で、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の全額（2,000,000千円）が株式に転換されたことにより、資本金が1,000,000千円、資本剰余金が999,999千円、それぞれ増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月12日 取締役会	普通株式	193,730	6.00	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金
平成23年10月28日 取締役会	普通株式	192,937	6.00	平成23年9月30日	平成23年12月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	医薬品事業	医療用・研究用 機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,220,934	292,204	10,513,139	-	10,513,139
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	269,119	269,119	269,119	-
計	10,220,934	561,323	10,782,258	269,119	10,513,139
セグメント利益	1,319,063	15,052	1,334,116	4,552	1,329,564

- (注) 1 セグメント利益の調整額 4,552千円は、セグメント間取引消去であります。  
 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	医薬品事業	医療用・研究用 機器事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,415,905	280,765	9,696,670	-	9,696,670
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	254,976	254,976	254,976	-
計	9,415,905	535,742	9,951,647	254,976	9,696,670
セグメント利益	936,733	30,775	967,508	4,094	971,603

- (注) 1 セグメント利益の調整額4,094千円は、セグメント間取引消去であります。  
 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

## (有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

## (デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	24円68銭	16円46銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	788,096	530,028
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	788,096	530,028
普通株式の期中平均株式数(株)	31,938,753	32,200,515
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	24円33銭	16円41銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	446,730	96,073
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## (会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号平成22年6月30日)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は24円33銭、普通株式増加数は448,173株であります。

## (重要な後発事象)

当第3四半期連結累計期間  
(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

当社は、平成23年12月22日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。本決議に基づき、平成24年1月1日より本報告書提出日の前日までの間において実施した自己株式の取得は次のとおりであります。

## 自己株式の取得結果

- (1) 取得株式数 347,600株
- (2) 取得総額 300,000,000円
- (3) 取得期間 平成24年1月5日～平成24年2月13日(約定ベース)
- (4) 取得の方法 信託方式による市場買付

## (参考)

平成23年12月22日開催の取締役会決議内容

- 1. 自己株式の取得を行う理由  
経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を可能とするため。
- 2. 取得に係る事項の内容
  - (1) 取得対象株式の種類  
普通株式
  - (2) 取得しうる株式の総数  
500,000株(上限)(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 1.55%)
  - (3) 株式の取得価額の総額  
400,000,000円(上限)
  - (4) 取得期間  
平成24年1月5日～平成24年3月31日

## 2 【その他】

第37期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当について、平成23年10月28日開催の取締役会において、平成23年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	192,937千円
1株当たりの金額	6円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成23年12月12日



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月13日

日本ケミカルリサーチ株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 片岡 茂彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 和田 朝喜 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ケミカルリサーチ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本ケミカルリサーチ株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。